

## 第7節 図画工作

### 第1 本資料の活用について

#### 1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（図画工作編）及び埼玉県小学校教育課程編成要領を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、図画工作科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- (2) 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を示している。
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」には、「主体的に学習に取り組む態度」として、観点別評価を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず個人内評価を通じて見取る部分があるとされていることを受け、個人内評価に対する考え方を示している。

#### 2 取り上げた内容

##### 第1 本資料の活用について

##### 第2 図画工作科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
- 3 「造形的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
- 4 図画工作科における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について
- 5 観点別学習状況の評価の観点について
- 6 個人内評価の扱いについて

##### 第3 題材の指導と評価の計画及び改善

- 1 題材計画の作成と評価及び改善の考え方
- 2 題材の指導計画、評価計画作成上のポイント
- 3 題材の指導と評価の計画

##### 第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
- 2 具体的な学習評価の方法及び記録の方法
- 3 題材の指導・評価計画

##### 第5 図画工作科における学習評価の評定への総括例

- 1 題材における観点ごとの評価の総括例
- 2 学期末における観点別学習状況の評価及び評価の総括例

#### 3 本資料の活用にあたって配慮すること

図画工作科の目標達成を通して一人一人の児童の成長を図るためには、学校の特色や児童の実態、学校教育目標等を踏まえた題材開発や指導方法の工夫改善と充実が求められる。本資料の指導・評価計画例は、そのための一助として活用いただきたい。また、目標に準拠した評価を適切に行うためには、図画工作科のねらいや育成する資質や能力、学習評価の在り方と評価方法などについて改めて確認することが肝要である。本資料では、それらについて順序立てて改めて考えていくとともに、指導・評価に焦点を当てた授業の事例を取り上げて解説する。

#### 4 学力・学習状況調査の活用

図画工作科においては、学力・学習状況調査の結果を踏まえ、他の教科との関連を図ることもできる。例えば、「共通事項」を視点に、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動の充実を図っていく等が考えられる。また、自分なりの意味や価値をつくりだす表現及び鑑賞の活動を共感的に支援していくことで、「非認知能力」の向上や「学習方略」の改善を図ることも考えられる。

#### 指導計画作成の留意事項

編成要領（編 P111）で示された「指導計画作成にあたっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示している。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなどの課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「共同してつくりだす活動」の視点
- (7) 「低学年における他教科等や幼児教育との関連」の視点
- (8) 「事故防止と学習環境の整備を図る」視点

## 第2 図画工作科における学習指導と評価

### 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

図画工作科では、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を育成することを目指している。そして、この育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。

図画工作科 教科の目標（解P9参照）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

### 2 図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

- (1) ①「知識及び技能」が習得されること、②「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、③「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
- (2) 必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。題材など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進める。
- (3) 「深い学び」の視点に関しては、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげる。
- (4) 表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにする。

### 3 「造形的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

「造形的な見方・考え方」とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことであると考えられる。児童がどのような意味や価値をつくりだしているのかを理解できるようにするためには、例えば、児童が授業中に様々な考えや思いをつぶやいたり、説明したりする場面において、教師が共感的に捉えるとともに、それらを共有することが大切である。

### 4 図画工作科における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について

「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」は、観点別学習状況の評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」に属しており、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価していく。これらは、学びの中で相互に関わり合いながら立ち現われるものとして考えられる。例えば、友人と全く会話をせず、時間を考えないで黙々と活動するような学習を調整しようとしないう姿や、反対に、友人と学習に関係のない会話に終始し、粘り強く活動に取り組まない姿は、望ましい姿ではない。授業においては、活動の中の適切な場面において友人と学習内容について対話する場面が設定されたり、見通しをもちながら学習できるように支援したりすることが大切である。また、評価においても作品や作品票からだけでなく、学習活動の過程の中のつぶやきや、教師との対話、学習活動の振り返りが行えるワークシートや図工ノートなど、多角的な視点で評価を行うことが大切である。

## 5 観点別学習状況の評価の観点について

### (1) 学習評価を実施するまでの流れ（評価規準作成手順）

- ① 学習指導要領に示された図画工作科の目標を確認する。(P149 第2の1を参照)
- ② 文部科学省通知に示された「図画工作科の評価の観点及びその趣旨」を確認する。(同項(2)(3)を参照)
- ③ 学習指導要領に示された図画工作科の目標を踏まえ、学校・児童等の実態を明確化する。
- ④ 学習指導要領解説を参考にし、学校・児童等の実態を考慮して題材及び題材の目標を設定する。
- ⑤ 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。(同項(4)参照)
- ⑥ 題材ごとの評価規準を作成する。(同項(5)参照)
- ⑦ 指導と評価の計画を作成する。(評価場面や評価方法等を計画する)
- ⑧ 評価規準に達しない児童への手立てを設定する。
- ⑨ 授業を行い、評価結果などから観点ごとの総括的評価を行う。

国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』参照

### (2) 図画工作科の評価の観点及びその趣旨について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。</li> <li>・材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。</li> </ul>	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

### (3) 学年別の評価の観点の趣旨について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>第1学年及び第2学年</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付いている。</li> <li>・手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。</li> </ul>	形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。	つくりだす喜びを味わい楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
<b>第3学年及び第4学年</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かっている。</li> <li>・手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。</li> </ul>	形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりしている。	つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。
<b>第5学年及び第6学年</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。</li> <li>・材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。</li> </ul>	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

### (4) 「内容のまとめりごとの評価規準」の作成について

「内容のまとめりごとの評価規準」は、学習指導要領に示された図画工作科及び各学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、以下の手順を参考に作成することができる。

まず、①図画工作科の「内容のまとめり」（解 P23参照）と「評価の観点」との関係を確認し、次に②観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

#### 【第1学年及び第2学年「造形遊び」における内容のまとめりごとの作成例】

#### ① 図画工作科の「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

「A表現」(1)ア…思考力、判断力、表現力等に関する内容 (2)ア…技能に関する内容  
 「B鑑賞」本題材においては鑑賞活動を設定しないことを確認する。  
 「共通事項」(1)ア…知識に関する内容 (1)イ…思考力、判断力、表現力等に関する内容

② 観点ごとのポイントを踏まえ「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】
○「知識・技能」のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識」は、〔共通事項〕(1)アから作成する。</li> <li>・「技能」は、「A表現」(2)アから作成する。</li> <li>・「A表現」(2)の文頭「造形遊びをする活動を通して」は、内容のまとめりを示すものなどで削除する。</li> <li>・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。</li> </ul>
○「思考・判断・表現」のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考・判断・表現」は「A表現」(1)ア、〔共通事項〕(1)イから作成する。〔共通事項〕(1)イに続けて「A表現」(1)アを示し、「自分のイメージをもつ。」を「自分のイメージをもちながら、」とする。</li> <li>・「A表現」(1)アの文頭の「造形遊びをする活動を通して」は、内容のまとめりを示すものなので削除する。</li> <li>・「A表現」(1)アの「造形的な活動を思い付くことや、」を「造形的な活動を思い付き、」とする。</li> <li>・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。</li> </ul>
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年の「観点の趣旨」を踏まえて作成する。</li> <li>・鑑賞の活動を行わない場合は「表現したり鑑賞したりする学習活動」を「表現する学習活動」とする。</li> </ul>

【第1学年及び第2学年「造形遊び」における内容のまとめりごとの評価規準例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。</li> <li>・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。</li> </ul>	形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。	つくりだす喜びを味わい楽しく表現する学習活動に取り組もうとしている。

(5) 題材の評価規準の作成について

題材の評価規準の作成に当たっては、図画工作科及び各学年の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」等の考え方を基に「題材の評価規準作成のポイント」を参考にしながら作成する。その際、身に付ける資質・能力や学習活動、扱う材料・用具等を考慮し、題材に即して具体的に作成していく。

【題材の評価規準作成のポイント】

「知識・技能」	
「知識」	「技能」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「〔共通事項〕のアの指導」(解P114参照)を参考にして、題材に即して具体的に示す。</li> <li>・全ての題材において、「自分の感覚や行為を通して」については、題材に即して具体的に示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての題材において、全学年の「材料や用具」、中学年、高学年の「前年度までの材料や用具」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」(解P117参照)を参考にして、題材に即して具体的に示す。</li> </ul>
「思考・判断・表現」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形遊びをする活動における、低学年の「身近な自然物や人工の材料の形や色など」、中学年の「身近な材料や場所など」、高学年の「材料や場所、空間などの特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」(解P117)などを参考にして、題材に即して具体的に示す。</li> <li>・絵や立体、工作に表す活動における、低学年の「感じたこと、想像したこと」、中学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと」、高学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいこと」については、題材に即して選択し、具体的に示す。</li> <li>・鑑賞する活動における、低学年の「自分たちの作品や身近な材料など」、中学年の「自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程など」、高学年の「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形など」は、題材に即して選択し、具体的に示す。</li> <li>・全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「〔共通事項〕のアの指導」(解P114参照)を参考にし、題材に即して具体的に示す。</li> </ul>	
「主体的に学習に取り組む態度」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に示す。</li> </ul>	

## 【題材の評価規準設定例】

内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>第1学年及び第2学年</b>			
「鑑賞」	知 自分の感じたことを話したり、聞いたりする行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付いている。	鑑 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	態 つくりだす喜びを味わい楽しく自分たちの作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。
<b>第3学年及び第4学年</b>			
「造形遊び」	知 自分の感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどに気付いている。 技 木切れなどを適切に扱うとともに、木や小刀類などについての経験を生かし、組み合わせたり、切つないだりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。	発 形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、木切れや校庭などの場所を基に造形的な活動や、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。	態 つくりだす喜びを味わい進んで木切れなどで造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。
「鑑賞」	知 身近な美術作品を見るときに感覚や行為を通して、形や色などが分かっている。	鑑 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、身近な美術作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	態 つくりだす喜びを味わい進んで身近な美術作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。
<b>第5学年及び第6学年</b>			
「造形遊び」	知 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。 技 活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの板材についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくっている。	発 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、スチレンボードや校舎の空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えている。	態 つくりだす喜びを味わい主体的にスチレンボードや校舎の空間などの特徴を生かしながら造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。
「鑑賞」	知 自分たちの作品を見るときに感覚や作品について語ったり、友人と話し合ったりする行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。	鑑 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	態 つくりだす喜びを味わい主体的に自分たちの作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

※ 例示されていない内容は、「題材の指導と評価の計画 (P154～)」及び「題材の指導・評価計画 (P161～)」を参照

※ 知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態＝「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。

## 6 個人内評価の扱いについて

「学びに向かう力、人間性等」には、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価等を通じて見取る部分がある。

個人内評価の対象となるものについては、児童が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童に伝えることが重要である。特に、「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやりなど」児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し児童に伝えることが重要となる。

観点別学習状況の評価と評定では十分に示しきれない一人一人のよい点や可能性などを、個人内評価として適切な時期に行い、指導と評価の一体化を図ることも大切である（製作中の助言・作品カードへのコメントなど）。個人内評価においても児童に身に付けさせたい資質や能力を明確にし、それに照らして学習評価を行うことが重要である。また、言語活動を充実させるためにも、〔共通事項〕の視点を取り入れ、豊かに語りかけたい。

### 第3 題材の指導と評価の計画及び改善

#### 1 題材計画の作成と評価及び改善の考え方

- (1) 題材の指導計画の作成に当たっては、まず、学習指導要領及び教育課程編成要領を確認する。次に、学校教育目標や児童の実態、地域の特性、使用教科書などを考慮して作成された年間指導計画を踏まえ、育成を目指す資質・能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」や、子供の実態から題材を設定し、題材の目標を明確にすることに留意する。また、作成の際は、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための改善の視点にも留意する。「主体的な学び」については、見通しや振り返り、「対話的な学び」については、教師と児童、児童同士、地域の方との対話等、「深い学び」については、「造形的な見方・考え方」を働かせることが改善の視点となる。
- (2) 題材の評価計画の作成に当たっては、まず、題材の目標と評価規準が表裏一体となるように留意する。次に、題材の指導計画において明確にした題材の目標と対応させて題材の評価規準を明確にし、育成を目指す資質・能力を発揮する児童の姿をイメージしていく。また、1単位時間における学習活動のプロセスごとに評価する評価規準の観点を振り分けて作成する。評価方法については、児童の行動の観察、児童との対話、児童の表現や記録の読み取りなど、必要性、妥当性のある評価となるよう多様な評価方法を意識して作成する。(P160参照)最後に、評価を学習改善、指導改善につなげるような評価となるようにし、評価に必要性や妥当性の認められないものについては改善していくことに留意する。
- (3) 題材の指導計画、評価結果を基に、学習改善、指導改善を一体的に捉え、さらに児童が資質・能力を発揮できるようにする。学習改善、指導改善は、本時につながる改善、次時につながる改善、同じ領域の次の題材につながる改善、違う領域の次の題材につながる改善があるという事に留意し、日々の授業実践を改善につなげることが重要である。学習改善を目指すために、児童の活動におけるよい点などを積極的に伝え、学びの意義や価値を実感できるようにすることが重要である。また、指導改善を目指すために、児童の活動のプロセスから、児童が発揮していた資質・能力を見取る力、授業の導入・展開・結末における教師の指導や手立てが児童にとって有効であったのかを授業後に教師自身が授業を振り返ることが重要になる。

#### 2 題材の指導計画、評価計画作成上のポイント(配慮事項)

- (1) 「共通事項」は、表現及び鑑賞の活動において共通となる資質・能力である。「共通事項」(1)アは「知識」、(1)イは「思考力、判断力、表現力等」に位置付けて指導と評価を行うようにする。
- (2) 「B鑑賞」の指導については、「友人の作品の鑑賞を通して自分の作品のよさに気付く」、「美術作品から考えたことを言葉にまとめる」など、鑑賞する対象の違いに応じたり、特質に合わせたりして指導計画を作成するようにする。
- (3) 児童の興味や関心、技能などの実態を考慮して、2学年の見通しをもって各学年の指導の目標及び内容、評価規準を設定する。その際、第1学年では、幼稚園等教育における表現に関する内容との関連を図り、第6学年では、中学校美術科及び、技術・家庭科との関連を考慮する。
- (4) 各学年の指導内容を踏まえ、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力が育成されるような題材を設定する。
- (5) 個々の児童のつまずきなどに対応できるように、ゆとりをもった指導計画とし、教師が無理なく、効率的に実施できる評価計画となるようにする。
- (6) 評価規準の設定においては、児童の学習の実現状況を「おおむね満足できる」と判断されるものをB評価と想定し、学習指導要領の目標や内容、学年ごとの「評価の観点及びその趣旨」、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて設定する。使われる内容や文言は、学習指導要領や同解説を参考にし、根拠のはっきりした客観的な評価となるようにする。
- (7) 指導と評価計画の作成においては、題材のまとめりの中で適切に評価を実施できるよう、「題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす評価」と、「題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す評価」の視点で計画的に評価の時期や評価方法を考えていくことが重要である。

3 題材の指導と評価の計画 ※学習指導案の形式については、P160第4を参照

<事例1>材料粘土を使って、表したいことをもとに表し方を工夫できるようにすることをねらった事例  
 第2学年「ぎゅっとにぎってのぼしてそして」  
 編P117「おしゃれなどうぶつ」に関連した事例を示している。  
 A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 立体に表す活動

1 題材名「ぎゅっとにぎってのぼしてそして」  
 【第2学年】A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 立体に表す活動

2 題材について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す。)

(1) 題材の目標

- ・自分の感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付く。
- ・粘土に十分に慣れるとともに、にぎったり、丸めたり、伸ばしたり、立たせたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。〈知識及び技能〉
- ・粘土をにぎったり、丸めたり、伸ばしたり、立たせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
- ・自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・いろいろな形や色、触った感じを基に、自分のイメージをもつ。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・楽しく粘土をにぎったり、丸めたり、伸ばしたり、立たせたりして立体に表現したり自分たちの作品を鑑賞したりする活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 自分の感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付いている。 <b>技</b> 粘土に十分に慣れるとともに、にぎったり、丸めたり、伸ばしたり、立たせたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。	<b>発</b> いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、粘土をにぎったり、丸めたり、伸ばしたり、立たせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 <b>鑑</b> いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	<b>態</b> 作りだす喜びを味わい、楽しく粘土をにぎったり、丸めたり、伸ばしたり、立たせたりして立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

(3) 評価計画及び評価方法 (○：指導に生かす評価を行う、◎：全員の学習状況を記録に残す評価)

観点	時	1	2	3	評価方法
知識・技能		◎知 技	◎知 技		行動観察・対話・表現
思考・判断・表現			◎発	◎鑑	行動観察・対話・表現・記述
主体的に学習に取り組む態度		◎	○	◎	行動観察・対話

4 指導と評価の実際 (3時間扱い)

時間	学習活動	児童の具体的な姿
第1・2時	1 粘土をにぎったり、丸めたり、伸ばしたりして形を変化させる。	

2 粘土で表したい形を考え、身近にある材料を使いながら、工夫して形に表す。

第3時

3 自分たちの作品を鑑賞し、造形的な面白さや楽しさを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。



1の学習活動では、「にぎってみよう。つまんだり伸ばしたりすると、どうなるかな。」と声を掛け、粘土の形が自由に変えられることに気付けるようにする。

P148 指導計画の作成の留意事項(7)



【知・技】「○○になった、○○に見える」などと発言し、にぎったり、丸めたり、伸ばしたり、立たせたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを表していると判断する。

B評価(行動観察・対話・表現)



【知・技】「○○になるには、ここを高く立たせてみたいな。わりばしを使ってみよう」と、表したいことを表すためにわりばしを芯材として、積極的に使おうとしていることから評価規準を上回っていると判断する。A評価(行動観察・対話・表現)



2の学習活動では、粘土に身近な材料を芯材として使うことで、粘土を立ち上げられることに気付けるようにする。事前に集めた材料や図工室にある材料で、活動を始めている児童がいたら、全体で紹介していく。



【思・判・表 鑑】つくってみたいもののイメージをもちながら、粘土を立ち上げようと身近な材料を芯材として使ったり、粘土の形を工夫したりして活動していると判断する。

B評価(行動観察・対話・表現)

P148 指導計画の作成の留意事項(1)



3の学習活動では、まず自分の作品カードにつくったものの名前や特徴、みんなに見て欲しいところなどを書くようにする。次に、作品カードを使いながら自分の作品のよさを友人に紹介する場を設定する。そして、自分や友人の作品をじっくり鑑賞する時間を設け、造形的な面白さや楽しさを味わえるようにする。

【思・判・表 鑑】【態】自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるとともに、楽しく活動していると判断する。

B評価(行動観察・対話・表現・記述)



＜事例2＞表したいことや用途などを考え、表現への思いを一層膨らませることをねらった事例  
 第3学年「カラフルねん土で小もの入れ」  
 編P118「カラフルねん土でマイショップ」と関連した事例を示している。  
 A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 工作に表す活動

1 題材名 「カラフルねん土で小もの入れ」

【第3学年】A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 工作に表す活動

2 題材について

(1) 児童の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって

本題材では、使えるものをイメージしてつくることと、紙粘土を使って造形を行うことの2点を製作のポイントとしている。紙粘土は、少量の絵の具を混ぜることで様々な色に変えることができる。色と触感を楽しみながら、形や色の感じが分かり、粘土の扱いの経験なども生かしながら、形や色を工夫してイメージを効果的に表すことができるようにしたい。また、実用性を兼ね備えた造形作品をつくる題材のため、どのような材料がどのようなものに見えるか、よく考えた上で材料を集められるようにしていきたい。

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イは、ア\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す。)

(1) 題材の目標

- ・生活の中で使うものを、空き容器と紙粘土でつくる時の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かる。
- ・空き容器、水彩絵の具などを適切に扱うとともに、紙粘土についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。 〈知識及び技能〉
- ・使う様子を想像したり材料を組み合わせて感じたりしたことから、表したいことを見付け、用途を考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
- ・実際に使うなどして自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・進んで空き容器や紙粘土を用いて立体に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

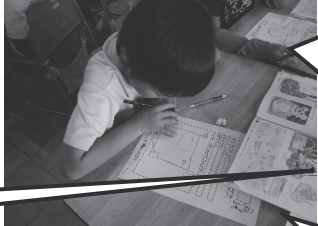



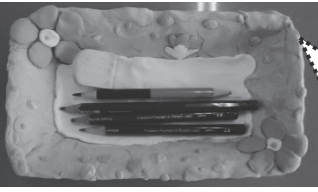

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>生活の中で使うものを、空き容器と紙粘土でつくる時の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かっている。</p> <p><b>技</b>空き容器、水彩絵の具などを適切に扱うとともに、紙粘土についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫している。</p>	<p><b>発</b>形や色などの組合せによる感じなどを基に自分のイメージをもちながら、使う様子を想像したり材料を組み合わせて感じたりしたことから、表したいことを見付け、用途を考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p><b>鑑</b>形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、実際に使うなどして自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p><b>態</b>つくりだす喜びを味わい、進んで空き容器や紙粘土を用いて立体に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

(3) 評価計画及び評価方法 (○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価)

観点	時	1	2	3	4	5	評価方法
知識・技能				◎知	◎技		行動観察・対話・表現
思考・判断・表現		○発	◎発			◎鑑	行動観察・対話・記述
主体的に学習に取り組む態度		◎	○	◎	○	◎	行動観察・対話・表現

#### 4 指導と評価の実際（5時間扱い）

時間	学習活動	児童の具体的な姿
第1時	<p>1 用途や機能性、置く場所を基に、どんな小物入れをつくるか考える。</p> <p>P148 指導計画作成の留意点(1)</p>	 <p>使う様子を想像して表したいことが思い付くように、何を入れるか、どこに置くかなどの視点を示したワークシートを用意し、具体的に考えられるようにする。その際、どのような材料がどのような形で使えるかを複数紹介し、より強くイメージをもてるようにする。</p>
第2・3・4時	<p>2 つくりたいものを想像しながら空き容器を組み合わせ、テープ等で接合して土台をつくる。</p> <p>3 組み合わせた空き容器を紙粘土で覆い、形や色の感じを工夫して装飾をする。</p>	 <p>思い付いたつくりたいものに合わせて空き容器を集めるように伝え、各家庭にも学年便り等を使って材料集めの協力の呼びかけを行う。</p> <p>【思・判・表 発】用途や機能性をもとに、つくりたいものの具体的な形をワークシートに書くとともに、材料や色、形状について言葉を書き加えていることから評価規準を上回っていると判断する。<b>A評価</b>（行動観察・対話・記述）</p> <p>【思・判・表 発】用途や機能性をもとに、つくりたいものの具体的な形をワークシートに書いていると判断する。<b>B評価</b>（行動観察・対話・記述）</p>
		 <p>紙粘土を棒状にする、ねじる、丸める、塊状にするなど、粘土に触れて試す行為も大切に、使いやすさだけでなく、使って楽しくなる形状や色、飾りなどを考えられるようにする。</p> <p>製作途中に、小グループや学級全体で互いのつくっているものを見合う機会を設け、参考になる表現は積極的に取り入れられるようにする。</p> <p>P148 指導計画作成の留意点(3)</p> <p>【態】つくりだす喜びを味わい、進んで空き容器や紙粘土を用いて立体に表す学習活動に取り組んでいると判断する。<b>B評価</b>（行動観察・対話・表現）</p>
第5時	<p>4 自分たちの作品を鑑賞し造形的なよさや面白さを感じ取りながら自分の見方や感じ方を広げる。</p> 	 <p>【知・技】水彩絵の具などを適切に扱うとともに、表したいことに合わせて紙粘土での表現の仕方や飾り付けを工夫していると判断する。<b>B評価</b>（行動観察・対話・表現）</p>  <p>つくった小物入れの中に、実際に小物を入れて、その機能や工夫した点などについて紹介し合い、造形的なよさや面白さを実感的に感じ取れるようにする。</p> <p>【思・判・表 鑑】用途や機能性をもとに友人と交流している姿が見受けられたと判断する。<b>B評価</b>（行動観察・対話・記述）</p>

図画工作

＜事例3＞ 主体的に学習に取り組む態度を育成することをねらった事例  
 第6学年「わたしのお気に入りの場所」  
 A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 絵に表す活動

1 題材名 「わたしのお気に入りの場所」

【第6学年】A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 絵に表す活動

2 題材について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イは、ア、イで示す。)

(1) 題材の目標

- ・自分の感覚や行為を通して、形や色、奥行き、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解する。
- ・前学年までの絵の具、クレヨンについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する。

〈知識及び技能〉

- ・お気に入りの場所を見て、感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色、材料の特徴を考えながら、どのように主題を表すかについて考える。
- ・自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

- ・形や色、奥行き、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・主体的に水彩絵の具で絵に表現したり自分たちの作品を鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

〈学びに向かう力、人間性等〉


(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 自分の感覚や行為を通して、形や色、奥行き、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解している。 <b>技</b> 前学年までの絵の具、クレヨンについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫している。	<b>発</b> 形や色、奥行き、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、お気に入りの場所を見て、感じたことや想像したことから表したいことを見付け、表したいことを考え、形や色、材料の特徴を考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 <b>鑑</b> 形や色、奥行き、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	<b>態</b> つくりだす喜びを味わい、主体的に水彩絵の具で絵に表現したり自分たちの作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

(3) 評価計画及び評価方法 (○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価)

観点	時	1	2	3	4	5	6	評価方法
知識・技能						◎知 技		行動観察・対話・表現
思考・判断・表現		○発	◎発	○発	◎発		◎鑑	行動観察・対話・表現・記録
主体的に学習に取り組む態度		○	◎	○	◎	◎	◎	行動観察・対話・表現・記録

4 指導と評価の実際 (6時間扱い)

時間	学習活動	児童の具体的な姿
第1・2時	1 お気に入りの場所を見て、感じたことや想像したことを基に、表したいことを見付ける。	 <p>表したいことを見付けられるようにするために、お気に入りの場所を選んで簡単に風景を書き留めるようにする。その際、「①視点を考えること」「②感じたことや想像したことを短い言葉でメモする」という2つのポイントを伝えた。</p> <p>P148 指導計画作成の留意点(1)</p>

時間	学習活動	児童の具体的な姿
第3・4時	2 表したいことを考え、形や色、材料の特徴を生かしながらどのように主題を表すか考える。	 <p>【思・判・表 発】 お気に入りの場所を見て感じたことや想像したことを基に、表したいことを見付けている姿が見受けられたと判断する。 B評価(行動観察・対話・表現)</p>  <p>どのように主題を表すか考えることの指導に当たっては、児童の作品を見合う活動を取り入れる。児童の作品を見合う際は3、4人のグループを編成し、自分の作品について表していること、表すために考えたこと、これからどのように表していきたいかについて語り合うようにする。</p>  <p>【思・判・表 発】 表したいことを考え、形や色、材料の特徴を生かしながらどのように主題を表すか考える姿が見受けられたと判断する。 B評価(行動観察・対話・表現)</p>
第5・6時	3 表したいことに合わせて、表し方を工夫して表す。	 <p>絵の具やクレヨンで表した形や色の造形的な特徴について価値付けを行えるようにする。</p> <p>【知・技】 形や色、奥行き、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解していると判断する。 B評価(行動観察・対話・表現)</p>  <p>表したいことに合わせて表し方を工夫することの指導に当たっては、児童が自分の作品で学級全体に知らせたい工夫を選び、「アピールポイント」として短い言葉で書き、作品を見合うようにし、自分の表現に合わせて友人の工夫したことを生かせるようにする。</p>  <p>【知・技】 表したいことに合わせて表し方を工夫して表していると判断する。 B評価(行動観察・対話・表現)</p>
	4 作品を鑑賞し、作品のよさや美しさを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。	 <p>お気に入りの場所である理由と児童の表現のつながりについて対話し、児童の活動を具体的に称賛する。</p> <p>【態】 つくりだす喜びを味わい、主体的に水彩絵の具で絵に表す学習活動に取り組む姿が継続的に見受けられ、評価規準を上回っていると判断する。 A評価(行動観察・対話・表現)</p>  <p>【態】 つくりだす喜びを味わい、主体的に水彩絵の具で絵に表す学習活動に取り組む姿が見受けられたと判断する。 B評価(行動観察・対話・表現)</p>  <p>表現のよさや美しさを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることの指導に当たっては、まず、児童が感じたよさや美しさごとに作品を展示できるようにする。次に、自分の作品のお気に入りポイントをカードに書いて作品とともに展示して鑑賞する。そして、家庭・地域の方にも作品を鑑賞していただけるように「冬の展覧会」を開催し、「よいところ見付けカード」を書いていただき、児童が読めるようにする。</p> <p>【思・判・表 鑑】 作品のよさや美しさを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている姿が見受けられたと判断する。 B評価(行動観察・対話・表現・記録)</p>

## 第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

### 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

- (1) 本時の学習指導に当たっては、本時の目標や指導内容を明確にし、児童が見通しをもって主体的に活動できるよう、「提案の仕方」「場の設定」「表現方法」「材料や用具」などを吟味するとともに、児童の思いを大切にす指導、つくりだす喜びが味わえる指導に留意する。
- (2) 本時の評価に当たっては、題材の評価計画にそって本時での評価の重点をしぼり、「どんな視点で」「どんな場面で」「どんな方法で」評価するのかを具体的に明らかにして評価し、評価の蓄積ができるよう留意する。なお、A評価とC評価の評価規準は示さず、B評価より上がA評価、下がC評価とする。
- (3) 本時の評価結果を基に、指導・評価を改善し、児童の資質・能力の向上を図る。評価資料等を基に、本時の授業展開を振り返り、目標、指導内容、題材、指導計画に基づいた評価を行い、「児童の学習改善」「教師の指導改善」「必要性、妥当性が認められない学習評価の見直し」につながるようにする。

### 2 具体的な学習評価の方法及び記録の方法

学習評価の方法	具体的な視点、留意点など
行動観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手や体の動き、友人との関わりなどに注目し、「児童が〇〇している」という状態を見取る。</li> <li>・「初めは〇〇していたが、途中から〇〇している」というように、時間経過による変容を見取る。</li> </ul>
発言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言やつぶやきから、児童の思いや意図、悩みなどを把握する。</li> </ul>
表情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動中の表情やまなざしを手掛かりにして、児童の思い、意図していることなどを推測する。ときには、声掛けを控えて、見守ることも大切である。</li> </ul>
対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・称賛や助言をしたり、尋ねたりしながら対話をするこで、児童の思いや意図、悩みなどを把握する。製作過程や鑑賞活動中の児童同士の対話にも耳を傾ける。</li> </ul>
表現・作品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現、製作の過程を追い、発揮された児童の資質や能力、思いや意図の変容を見取る。近付いて児童の目線で見ること大切である。</li> <li>・完成作品からは、発想の過程や製作の手順をたどり、そこに発揮されている児童の資質や能力、思いや意図の変容を読み解いていく。</li> <li>・児童自らが、展示方法や見せ方を考えながら、自分の表現や作品を写真や動画に記録したものなどを参考にして、思いや意図を読み取る。</li> </ul>
記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習カード」「鑑賞カード」「自己評価カード」「作品カード」などを工夫し、その記述から、発揮された児童の資質や能力、思いや意図の変容を見取る。共感的に教師のコメント（評価）を加え、作品の見方を提示したり、学習活動の成果を価値付けたりすることも大切である。</li> <li>・児童自らが思いを深め、学んだことを振り返ることができるようにするとともに、児童同士で互いの思いや発見を分かち合えるようにする。</li> </ul>

記録の方法	具体的な視点、留意点など
補助簿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自由記述型補助簿」「観点別評価型補助簿」などが考えられる。無理なく継続できるものを工夫する。授業後は児童の学習過程を振り返りながら記述するようにし、記録の蓄積により評価する。</li> </ul>
映像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静止画（写真）や動画などが考えられる。一瞬を逃さずに記録でき、授業の振り返りが容易になる。児童の姿やつぶやきに焦点を当てるとよい。活動の変容がよく分かり、造形遊びの記録にも向いている。</li> </ul>
ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケッチブック、ノートなどに学習で用いた様々な資料を貼っていく。継続的に、児童の成長を見取ることができる。</li> <li>・表現、製作の過程を撮影した写真を活用して、メモやコメントを付けたものを、題材ごとにカードにして、積み重ねていくのもよい。</li> </ul>

### 3 題材の指導・評価計画

＜事例1＞材料の特徴を基に造形的な活動を思い付き、工夫して造形遊びをすることをねらった事例  
 第1学年「わくわく ハコリンピック」  
 編 P116 「はこを ならべて」に関連した事例を示している。  
 A表現(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 造形遊びをする活動

#### 1 題材名「わくわく ハコリンピック」

【第1学年】A表現(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 造形遊びをする活動

#### 2 題材について

(1) 児童の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって

本題材は、空き箱や紙コップを材料とする造形遊びである。児童は、材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付いたり、感覚や気持ちを生かしながらどのように活動するかについて考えたりするだろう。また、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせて、活動を工夫してつくることも期待できる。空き箱も紙コップも身近にある人工の材料であり、形や色などにもいろいろな特徴があるため、この時期の児童にとって扱いやすい材料である。材料を介して友人と関わり合いながら活動を広げていくことができることも魅力である。

#### 3 学習指導要領上の位置づけ

A表現(1)ア…略 (2)ア…略 〔共通事項〕(1)ア…略 (1)イ…略

#### 4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イは、ア\_\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す。)

(1) 目標

- ・ 空き箱などを並べたり、つないだり、積んだりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。
- ・ 空き箱などに十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくる。 〈知識及び技能〉
- ・ 空き箱などの形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。
- ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ 楽しく空き箱などで造形遊びをする活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 空き箱などを並べたり、つないだり、積んだりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。 <b>技</b> 空き箱などに十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。	<b>発</b> 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、空き箱などの形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。	<b>態</b> 作りだす喜びを味わい楽しく空き箱などで造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。


#### 5 指導計画 (2時間扱い)

- (1) 本時のねらいを知り、活動に関心をもつ。……………7分
  - (2) 空き箱や紙コップを選び、思い思いに並べたり、つなげたり、積んだりする。 ]
  - (3) 材料の形や色などの特徴を生かし、友人と関わりながら、活動を広げる。 ]……………70分
  - (4) つくったものを見ながら、どのような工夫をして活動したのかを伝え合う。……………8分
  - (5) 後片付けをする。……………5分
- ※ 絵日記を書くことで、自分の活動を振り返る。……………事後 (国語の学習と関連を図る)

#### 6 本時の学習 (本時 1/2時)

- (1) 目標 (略) (4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 (1)目標 と同じ)
- (2) 準備
  - 教師：空き箱、紙コップ、デジタルカメラ、ビデオカメラ
  - 児童：空き箱、紙コップ

(3) 展開

過程 時間	学習活動 予想される児童の 具体的な姿(「」)	指導の工夫 〔共通事項〕に係る内容 ア _____、イ _____)	評価と手立て 観点：評価規準(評価方法) ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て
導入 7分	<p><b>提案</b> いろいろな形や色の空き箱や紙コップを使って、みんなで楽しくつくりましょう。</p> <p>1 本時のねらいを知り、活動の見通しをもつ。 2 どんなことができそうか、どんなイメージがうかんだか話し合う。 「並べてみたら、つなげてみたら、積んでみたら、…」</p>	<p>○事前に題材名を知らせ、材料集めをしながら、活動への期待を高めておく。 ○教師が手にしたいいくつかの材料で試してみせ、できた形からうかんだイメージを話し合い、楽しそうだなという思いがもてるようにする。</p>	<p>【<b>態</b>】 つくりだす喜びを味わい楽しく空き箱などで造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。 (表情・行動観察) ◎進んで材料を選び、手や体を動かしている。 ◆一緒に考えながら活動し、対話を通して意欲を引き出す。</p>
展開 35分	<p>P148 指導計画の作成の留意事項(3)</p> <p>3 空き箱や紙コップを選び、思い思いに並べたり、つなげたり積んだりする。 「並べたら、汽車になった。」 「紙コップの模様から思い付いた。」 「積んでみたら家になった。」</p>  <p style="text-align: center;">↑ 行き戻り ↓</p> <p>3、4の学習活動は、つくり、つくりかえ、つくるという過程を繰り返し、友人との関わりを通して、行きつ戻りつしながら学習が深まるようにする。</p>	<p>○実際に材料を手にして、<u>形や色などを感じ取りながら</u>、活動を思い付いたり、<u>イメージをもったりしながら</u>、色々な活動を試すようにする。</p> <p>空き箱のほかに、様々な柄や大きさの紙コップも材料にする。(材料の特徴を生かす、十分な材料を確保する。)</p> <p>○自信をもって活動できるように、活動の様子を見取ったり、対話したりしながら、児童の思いを共感的に受け止めるようにする。</p> <p>○友人と関わり合い、活動を広げていくようにする。</p> <p>児童の活動の様子を振り返り、授業改善に生かせるように、写真や動画で記録する。</p>	<p>【<b>知・技</b>】 空き箱などを並べたり、つないだり、積んだりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。(表情・行動観察) ◎いろいろな形や色などに気付きながらつくっている。 ◆形や色、柄など、材料の特徴に目が向くように言葉掛けをする。 【<b>知・技</b>】 空き箱などに十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。(表情・行動観察) ◎材料を手に、工夫して並べたりつないだり積んだりしている。 ◆友人の活動を参考に、いろいろな活動を試してみるように促す。</p>
整理 3分	<p>4 材料の形や色などの特徴を生かし、友人と関わりながら、活動を広げる。 「駅をつくってつなげよう。」 「遊園地を紙コップで囲んでみよう。」</p>	<p>自分の活動にこだわりをもっている児童には、一人で活動することも認め、見守るようにする。</p> <p>途中で、互いに見合う活動を行うことも効果的である。</p>	<p>指導に生かす評価は○で示した。</p> <p>【<b>思・判・表</b> (発)】 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、空き箱などの形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。 (表情・行動観察・対話) ◎つくったものからイメージをうかべ、感覚や気持ちを生かして、活動を広げている。 ◆友人との活動を促したり一緒に遊んだりしながら、発想のきっかけが見付けられるようにする。</p>
	<p>5 本時の学習活動の振り返りをする。次時の予定を確かめる。</p>	<p>○自分や友人がつくったものを見て回りながら次時の活動に備えるようにする。</p>	

7 場の設定

空き教室など、床を広く使って、友人と関わりながらのびのびと活動できる場所を活用する。活動場所の中央や周囲を利用して、児童が選びやすく、手に取りやすいように、材料の配置を工夫する。

**<事例2> 様々な材料に触れ、表したいことに合わせて表し方を工夫することをねらった事例  
第3学年「くつ下や手ぶくろにまほうをかけると」  
A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 立体に表す活動**

**1 題材名 「くつ下や手ぶくろにまほうをかけると」**

【第3学年】A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 立体に表す活動

**2 題材について**

(1) 児童の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって

本題材は、身近にある靴下や手袋などの布製品に新聞紙などを詰めたり、ひもなどで結んだりして、材料に魔法をかけたように形を変えていく学習活動である。そのような造形的な操作をすることで形が変わっていくことに関心を持ちながら発想を広げ、材料を組み合わせて自分の好きな形をつくることを楽しませたい。(略)

**3 学習指導要領上の位置付け**

A表現(1)イ…略 (2)イ…略、B鑑賞(1)ア…略、〔共通事項〕(1)ア…略 (1)イ…略

**4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 ※〔共通事項〕(1)ア、イは、ア\_\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す。**

(1) 目標

- ・ 身近にある靴下や手袋などの形を変えたり組み合わせたりして表現するときの感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かる。
- ・ 靴下や手袋、接着剤などを適切に扱うとともに、布や新聞紙などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。〈知識及び技能〉
- ・ 靴下や手袋に新聞紙などを詰めたり、ひもなどで結んだりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。
- ・ 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・ 形や色などの組合せによる感じを基に自分のイメージをもつ。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ 靴下や手袋などの組み合わせ方を工夫して立体に表したり、自分たちの作品を鑑賞したりする学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>身近にある靴下や手袋などの形を変えたり組み合わせたりして表現するときの感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かっている。</p> <p><b>技</b>靴下や手袋、接着剤などを適切に扱うとともに、布や新聞紙などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p><b>発</b>形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、靴下や手袋に新聞紙などを詰めたり、ひもなどで結んだりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている。</p> <p><b>鑑</b>形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p><b>態</b>つくりだす喜びを味わい進んで靴下や手袋などの組み合わせ方を工夫して立体に表したり、自分たちの作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

**5 指導計画 (4時間扱い)**

- ※ 学級通信等で、靴下や手袋などの材料を集めるよう伝える。……………事前
- (1) 集めた材料を見たり触ったりして、形や色の感じを味わう。……………10分
- (2) 材料に新聞紙などを詰めたり、ひもで結んだりなどしてできた形などをいろいろ組み合わせたりして、つくりたいもののイメージをもつ。……………35分
- (3) 材料を切ったり、形を変えたり、組合せを考えたりして自分の好きな形をつくり、自分のイメージに合わせて工夫してつくるおもしろさを味わいながら表す。……………120分
- (4) 自分や友人の身近な靴下や手袋などが作品に変身したことを楽しむ。……………15分

図画工作



## 6 本時の学習（本時 1 / 4時）

- (1) 目標 ・靴下や手袋、接着剤などを適切に扱うとともに、布や新聞紙などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。  
 （知識及び技能）

(2) 準備

- 教師：新聞紙、輪ゴム、針金ハンガー、ペットボトル、ひも
- 児童：身の回りの布製品（靴下や手袋、古着など）、ひも類（毛糸、リボンなど）  
 ボタンやおはじきなど飾りに使うもの、はさみ、接着剤

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿(「」)	指導の工夫 〔〔共通事項〕に係る内容 ア _____、イ_____ )	評価と手立て 観点：評価規準(評価方法) ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て
事前	※題材名を知り材料集めをする。 「靴下や手袋でつくれるんだ。」 「家で探してみる。」 「ひももつかえそうだ。」	○教科書を見ながら布製品が材料となることを知らせ、どんな材料が使えるようか話し合わせながら、児童の意見を引き出す。	興味をもって材料集めができるように、教室内に材料を飾っておき、自由に触れるよう工夫した。また、つなげたり中に入れたりするための材料が必要であることを伝える。3週間程前に学級通信で家庭にも知らせる。
導入10分	<b>提案1</b> 集めた材料の形や色を感じてみよう。  1 持ってきたいろいろな材料の形や色を味わう。 「ふわふわしている。」 「この色の組合せがすき。」	○靴下に手を入れて動かしてみたり、手袋を裏返してみたりなど材料の様々な使い方を試してみるよう助言する。 	自分の感覚や行為を通して、それらの組合せによる感じが分かるように、材料と触れ合う時間を設定し、お互いの材料が見合える場づくりをする。
展開30分	<b>提案2</b> 楽しい仲間に変身させる魔法を考えよう。  2 好きな形に変身させるには、どうしたらいいか試しながら考える。 「靴下をもっと長くするにはどうしたらいいだろう。」 「手袋どうしをつなげたい。」 「中に何か入れてみようか。」  3 どんな魔法が考えられたか発表する。 「針金ハンガーをいれたら、好きな方向に曲げられる。」 「輪ゴムでしばったら、靴下もつなげられる。」	○魔法をかけてすてきな仲間に変身させるように伝え、児童が楽しく材料に触れられるようにする。 ○学校にある材料を知らせ、何に使えるようか考えられるようにする。 ○ <u>材料の形を変えたり、組み合わせたりすることを通して、変身させる方法が分かるようにする。</u> ○ <u>材料の色や組み合わせた形などの感じを基に何に見えてくるか考えさせ、自分のイメージをもてるようにする。</u> ○何をどう使ったら、どのような変身ができたのか、実演とホワイトボードで発表できるようにする。  P148 指導計画の作成の留意事項(6)	新聞紙やひも、針金ハンガーなどの材料を教師が材料置き場に用意し、児童が様々な材料を使って材料を変身させる体験ができるようにする。  【知・技】靴下や手袋、接着剤などを適切に扱うとともに、布や新聞紙などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。(行動観察・表現・対話) ◎材料を組み合わせ新たな形をつくり出そうと試みている。 ◆材料の使い方が分からない場合は、「入れる」「まげる」「つなげる」「立たせる」などのキーワードを基に材料の使い方を助言する。 
整理5分	4 本時の学習活動の振り返りをする。自分の学習状況の確認をするとともに、次時の活動への見通しをもつ。	○本時の学習を通して分かった材料の使い方を整理し、それぞれの活動のよさを称賛する。 ○次時でさらに使いたい材料があれば持ってくるよう伝える。	児童の発表内容は次時でも掲示できるように写真と言葉で残しておく。 

発表児童の考えをクラスで共有できるよう、材料の特徴や組み合わせ方、何に見えてくるかなどをたずねるようにする。

## 7 場の設定

お互いの材料や試行錯誤の様子が見られるよう、班での活動とした。また、教室の中心に材料置き場を設置し、移動の間に他の班の活動の様子も見られるように工夫した。

＜事例3＞木版のよさや面白さに気付くことをねらった事例  
 第4学年「ほってうつしてふしぎな世界」  
 編P119「こつこつほりほり夢の世界」に関連した事例を示している。  
 A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 絵に表す活動

1 題材名「ほってうつしてふしぎな世界」

【第4学年】A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 絵に表す活動

2 題材について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 学習指導要領上の位置付け

A表現(1)イ…略、A表現(2)イ…略、B鑑賞(1)ア…略、〔共通事項〕(1)ア…略 (1)イ…略

4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イについては、ア\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す。)

(1) 目標

- ・いろいろな彫り方を試したり、刷って確かめたりするときの感覚や行為を通して、形や色の感じが分かる。
- ・彫刻刀を適切に扱うとともに、版画インクについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 〈知識及び技能〉
- ・彫った形や版を刷って感じたことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
- ・自分たちの作品や製作過程で造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・進んで版に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>いろいろな彫り方を試したり、刷って確かめたりするときの感覚や行為を通して、形や色の感じが分かっている。</p> <p><b>技</b>彫刻刀を適切に扱うとともに、版画インクについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p><b>発</b>形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、彫った形や版を刷って感じたことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p><b>鑑</b>形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や製作過程で造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p><b>態</b>つくりだす喜びを味わい、進んで版に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 指導計画 (6時間扱い)

- (1) 彫刻刀の特徴や使い方知り、彫りやいろいろな色による刷りの違いを体験する。……………90分
- (2) 題材から想像を広げ、表したいものを考え、版を彫る。……………90分
- (3) 多様な色の組合せを考え、版を刷る。……………45分
- (4) 自分たちの作品を見ながら、表現のよさを味わう。……………45分

6 本時の学習 (本時1～2/6)



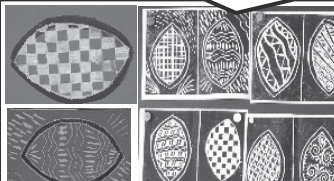



- (1) 目標
  - ・彫刻刀を適切に扱うとともに、版画インクについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 〈知識及び技能〉
  - ・進んで版に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 準備

- 教師：版木、版画用紙、ばれん、ローラー、水性版画インク、練り板、版画作業台、雑巾、ICT機器 (タブレット、大型テレビへ画像を映す機器)、大型テレビ
- 児童：彫刻刀、新聞紙

図画工作

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿(「」)	指導の工夫 〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____)	評価と手立て 観点：評価規準【評価方法】 ◎：十分満足できる状態 ◆：B評価に達しない児童への手立て
<b>提案</b> どんなもようがでてくるかな？ほって、すって、版画を楽しもう！			
導入 10分	1 作品例を見て表現方法を考えながら学習の見通しをもつ。 「彫りあとや黒の線がとってもきれいだ。」 「模様が素敵だ。」 「線の太さや色が違うと感じが変わる。」 2 彫刻刀の扱い方や場の使い方を 知る。	○作品例を見せ、作品のよさや面白さに触れ、題材への興味・関心を高め、新たな表現技法についてのイメージをもつことができるようにする。  	技法の解説や幅広い表現の参考として役立つように、サンプルを教師が用意する。 
手軽に版を彫ったり刷ったりできるように版木はB6サイズを使用する。 ○安全に留意して活動できるようにICT機器を活用して彫刻刀の使い方の指導を徹底する。 ICT活用で自作動画を使用し、安全な彫り方を視覚的に理解できるようにする。			
展開 65分	3 題材を体験する。 (1) いろいろな模様を彫る。 彫刻刀の種類による線の違いや線彫りと面彫りの違いを知り、組み合わせて様々な模様を彫る。 P148 指導計画の作成の留意事項(2) 「市松模様とタータンチェックを組み合わせてみようかな。」 「○○ちゃんの雪の模様は素敵だね。どうやって彫ったの？」 P148 指導計画の作成の留意事項(5) (2) 黒やいろいろな色で刷る。 色の違いで自分なりのイメージがもてるように色を変えたり、彫りを付け足したりして、工夫して試す。  「グラデーションにしたいな。」 「黄色と赤で元気な感じ。」 「空いているところに彫りを足してみようかな。」	○丸刀、三角刀、平刀、切り出し刀を使った時の線の違いや線彫りと面彫りの違いが分かるように教師が実演したり、資料を提示したりする。 ○様々な彫り方を試させ、版を回しながら彫りを進められるようにする。 ○友人と関わり合い、互いのよさを生かしながら活動を広げていくようにする。 タブレットの活用で席が遠い児童にも情報が伝わるようにする。  タブレットを使って、活動の写真や動画を記録し、製作途中や振り返りの鑑賞活動場面で表現の工夫やよさを共有したり、児童との対話から「形・色・イメージ」の3観点で児童の作品への思いをくみ取ったりする。 ○彫った線や形、模様を刷りで確かめることを通して、彫りや刷りの感じが分かるようにし、試行錯誤できるようにする。 指導に生かす評価は○で示した。 ○彫った形や色のイメージを基にいろいろな色の組合せを試し、自分のイメージをもてるようにする。	【態】 つくりだす喜びを味わい、進んで版に表したり自分たちの作品を鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。(行動・観察・対話) ◎彫ったり刷ったりする楽しさを味わいながら、いろいろな彫刻刀を使い、彫った線の形や組合せを試したり、色の組合せを変えて刷りを試したりしている。 ◆同じ彫刻刀しか使っていない児童や同じ彫り方しかしていない児童、単色や同じ色にこだわっている児童には、対話をとおして他の児童の表現を参考にしたり、参考資料を提示したりする。 ◆表現が苦手な児童には、「もくもく」「ザーザー」などの擬音語でイメージしやすい言葉がけをする。 【知・技】 彫刻刀を適切に扱うとともに、版画インクについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。
整理 15分	4 本時の学習活動の振り返りをする。自分の学習状況を確認するとともに、次時の活動への見通しをもつ。	○個々の活動のよさを認め合えるように、表現のよさを称賛する。 ○次時の活動内容に触れながら、活動への意欲を高めるようにする。	P148 指導計画の作成の留意事項(2) 

7 場の設定

版を刷る場を水場のそばに設置。黒とカラーの刷り場を分けて配置し、色を変えての刷りや彫りの修正が効率的に行えるように場の工夫をする。

P148 指導計画作成の留意事項(8)



＜事例4＞埼玉アートカードの鑑賞を通して造形的な見方や感じ方を深めることをねらった事例  
 第5学年「アートカードで見付けたことを話そう」  
 編P120「カードでトーク」と関連した事例を示している。  
 B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 鑑賞の活動

1 題材名 「アートカードで見付けたことを話そう」

【第5学年】B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 鑑賞の活動

2 題材について

(1) 児童の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって

本題材は、埼玉アートカードの美術作品について友人と話し合うことで自分や友人の見方や感じ方、発想の面白さに気付く内容である。埼玉アートカードは県内3つの美術館の所蔵美術作品画像をポストカードサイズに印刷したものであり、児童が実際の美術作品を鑑賞しやすい利点がある。

ここでは、教師が美術作品の見方を一方的に伝えるのではなく、(略)

3 学習指導要領上の位置付け

B鑑賞(1)ア…略、〔共通事項〕(1)ア…略、(1)イ…略

4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア\_\_\_\_\_、イ\_\_\_\_\_で示す。)

(1) 目標

- ・埼玉アートカードの美術作品を鑑賞したときの感覚や行為を通して形や色などの造形的な特徴を理解する。 〈知識及び技能〉
- ・埼玉アートカードの美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
- ・形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・主体的に埼玉アートカードの美術作品を鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 埼玉アートカードの美術作品を鑑賞したときの感覚や行為を通して形や色などの造形的な特徴を理解している。	鑑 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、埼玉アートカードの美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。	態 つくりだす喜びを味わい、主体的に埼玉アートカードの美術作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

5 指導計画 (2時間扱い)

- (1) 一つの美術作品の画像を学級全体で見て気付いたり感じたりしたことを話し合う。……45分
- (2) 埼玉アートカードを少人数グループで見て表現の特徴やよさを見付けたり、話し合ったりし、作品の紹介コメントを考える。……45分

6 本時の学習 (本時2/2時)

- (1) 目標
  - ・埼玉アートカードの美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。 〈思考力、判断力、表現力等〉
  - ・主体的に埼玉アートカードの美術作品を鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 準備

- 教師：埼玉アートカード15点、ワークシート、掲示資料、実物投影機
- 児童：鉛筆

図画工作

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿(「 」)	指導の工夫 〔〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____〕	評価と手立て 観点：評価規準(評価方法) ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て
導入 8分	1 前時を振り返る。 「両方の作品に青い色がある。」	○前時は学級全員で一つ美術作品を見て、気付いたことを話し合う活動を行ったことを伝える。 ○埼玉アートカードの中から趣が異なる作品 15 点を使ってカードゲームを行う。2 枚のカードをめくり、共通点(形、色、イメージ)を見付ける。見付けたことを伝え、共感を得たらカードをもらうルールとする。	共通点を見付けやすくするため、イメージは表面の様子や材料、自分の印象や情景であることを伝える工夫をする。
展開 30分	<p><b>提案1</b> 作品を見て、気付いたことや感じたことを話してみよう。</p> <p>2 ペアで気付いたことや感じたことを話し合う。「この舟はこれからどこに行くのかな。」</p> <p>3 気付いたことや感じたことを伝え合う。「青い色の上に黄色やピンク色が重なっています。」</p> <p><b>提案2</b> 見付けたり感じたりしたことをもとに、作品の紹介コメントをつくらう。</p> <p>4 ワークシートの作品の紹介コメントを考える。</p> <p>5 他の児童がつくった紹介コメントに合う作品を探す。「おいしいお菓子ができました。テイタイムにしませんか?」</p>	<p>○お互いの見方や感じ方を伝えやすくするため、2人で一組のグループで活動をする。<u>形や色などの造形的な特徴</u>を観点に美術作品を見て、気付いたこと、感じたこと、想像したことなどをワークシートに書き込む。</p> <p>○他の児童のつぶやきが聞き取りやすくなるため、大型テレビの前に移動して伝え合う。実物投影機にワークシートを写しながら、見付けたことや感じたこと、想像したことを発表し見方や感じ方を共有する。</p> <p>○教師の例示で紹介コメントの考え方を理解する。</p> <p>○お互いの見方や感じ方を伝えやすくするため、2人で一組のグループで活動する。作品の中に描かれている対象の関係性についても意識して考えるよう助言し、<u>形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ</u>ことができるようにする。</p> <p>○友人の見方や感じ方を共有するため、4人の少人数グループで活動する。児童のワークシートに書かれた紹介コメントを教師が読み上げる。児童はどの作品の紹介コメントなのかを予想しながら聞き、紹介コメントに合う埼玉アートカードをカルタのようにして取り合う。</p> <p>○教師は、児童が埼玉アートカードを取ったら、児童が記入したワークシートを大型テレビに提示して紹介コメントを付けた作品画像と児童名を発表し、コメントを付けた理由などをたずねる。</p> <p style="text-align: center;">P148 指導計画の作成の留意事項(4)</p>	<p>【思・判・表 鑑】埼玉アートカードの美術作品の形や色、表現の意図や特徴、表し方の変化などを捉え、自分の見方や感じ方を深めている。 (行動観察・表現・対話) ◎人物の関係性や構図に着目している。 ◆<u>形、色、イメージに着目して見る</u>よう助言する</p> <p>児童の見たことや感じたことが深まるよう、教師は形、色、イメージなどをたずね、見方や考え方を焦点化する。</p> <p>【態】つくりだす喜びを味わい、主体的に埼玉アートカードの美術作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。(行動観察・表現・対話) ◎人物の関係性や構図に着目している。 ◆<u>形、色、イメージに着目して見る</u>よう助言する。</p> <p>児童の見たことや感じたことが深まるよう、教師は紹介コメントをつくれた児童に形、色、イメージなどを観点に問いかけ、見方や考え方を共有できるようにする。</p>
整理 7分	6 本時の学習活動の振り返りをする。	○埼玉アートカードの作品は県内三つの美術館で鑑賞できることを伝え、美術館へのアプローチを図る。 ○ワークシートに本時の目標を観点にした活動の振り返りを記入する。	美術館と連携を図るため、美術館で鑑賞すると実際の作品の大きさが分かることを伝えるなどの工夫をする。

見付けたり感じたりした造形的なよさや美しさについて振り返ることで、自分の見方や感じ方を深め、学びを実感できるようにする。

7 場の設定

児童の学習活動に合わせて場を移動して活動する。

## 第5 図画工作科における学習評価の評定への総括例

### 1 題材における観点ごとの評価の総括例

(関連：編 P117題材例「えのぐを たらして 楽しいことが」【第2学年】)

小学校学習指導要領では、評価の観点が従来の「造形への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の4観点が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点到整理された。

児童の学習評価に関する妥当性、信頼性を高めるために、作品からだけではなくプロセスを重視する毎時間の授業での学習評価の蓄積が重要となる。題材ごとの評価規準を基に、「題材での評価計画」に沿って、座席表や名簿等を活用して効率的に学習評価を進める。この例は4時間扱の題材であるが、第1時には「知識・技能」を、第2、3、4時には「思考・判断・表現」を評価し、「主体的に学習に取り組む態度」は毎時間評価している。ここには座席表を活用した評価補助簿の例を下記に示す。また、観点別学習状況の評価を総括する際には、単に計算された数字のみを見るのではなく、評価補助簿に記録した児童の活動を振り返りながら評価していくことが大切である。

評価計画（4時間扱い） ○：指導に生かす評価 ◎：全員の学習状況を記録に残す評価

観点	時	1	2	3	4	評価方法
知識・技能		◎知・技				行動観察・対話・表現
思考・判断・表現			◎発	◎発	◎鑑	行動観察・対話・記述
主体的に学習に取り組む態度		○	◎	○	◎	行動観察・対話・表現





11/6 知技 (主)	11/13 発 主	11/20 発 (主)	11/27 鑑 主
-------------------	-----------------	-------------------	-----------------

2年1組 題材名 「えのぐをたらして楽しいことが」  
…B評価    …指導に生かす評価

Sさん	Iさん	Aさん	Kさん	Uさん	Fさん
✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A	✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A	✓ C C ✓ A A A ✓ A	✓ C C ✓ A A A ✓ A	✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A	✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A

友人に絵の具の垂らし方を教えてあげていた。

できた形の見立てについて指導した。

友人の作品から発想を広げていた。

Oさん	Hさん	Yさん	Eさん	Wさん	Mさん
✓ C A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A	✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A	✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A	✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A	✓ C A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A	✓ C A ✓ A ✓ A ✓ A ✓ A

友人の作品から発想を広げていた。

11月6日(水) 図工室 題材名 「えのぐをたらして楽しいことが」 1時間目					
Sさん	Iさん	Aさん	Kさん	Uさん	Fさん
画用紙を様々な方向に垂らして絵の具を垂らしていた。	何カ所にも絵の具を垂らして、一度に垂らしていた。	絵の具を何色も使って垂らしていた。	垂らした絵の具に違う色を混ぜて楽しんでいた。	垂らした絵の具をつなげて長い線をつくった。	画用紙をくるくる回して渦巻き模様をつくった。
Oさん	Hさん	Yさん	Eさん	Wさん	Mさん
1カ所ごとに絵の具の色を変えて垂らしていた。	2色を混ぜた絵の具を垂らして不思議な模様をつくっていった。	絵の具の線をつなげて小さな模様をたくさんつくっていった。	絵の具を垂らすところからつくった線を考えたり、塗り方を工夫していた。	友だちと楽しく取り組めた。画用紙の折り方を工夫していた。	絵の具を垂らすことに何度も挑戦し、納得のいく線が伸びた。

上記の座席表は、1時間目の「絵の具たらし」をしなが、記入したものである。発言や表情から児童の思いや願い、行動の様子や表現の観察から活動の様子を見取ったことを記録している。

上記の座席表は、「えのぐをたらして楽しいことが」の4時間の観点別学習状況の評価を記録できるようにした評価補助簿である。評価規準をもとに短時間で評価できるように「A評価・C評価」のみを記入し、B評価はチェックだけとする。余白には、個別指導を通して見取ったこと、指導した内容を簡単に記録している。

### 2 学期末における観点別学習状況の評価及び評価の総括例 (P6参照)

学習評価は、児童の学習状況を評価するとともに、それを踏まえて授業や指導計画を評価し、授業改善や個に応じた指導の充実、指導計画の改善といったPDCAサイクルを確立することが重要である。題材ごとに行った観点別学習状況の評価を、学期ごとの観点別評価及び評定簿に記入していきながら、題材による評価の違いを検証するとともに、B評価に達しない児童への指導の手立てを明らかにしておくことが大切である。観点別学習状況の評価に係る記録が観点ごとに複数ある場合については、「何回か行った評価結果のA、B、Cの数が多いものが、その観点の学習の実施状況を最もよく表現しているとする」という考え方に立つ総括の方法もある。

- ※ Aと総括されるもの「AAA AAB」等    Bと総括されるもの「BBB BBA」等
- Cと総括されるもの「CCC CCB」等
- ・ AとCが混在する場合や3つの記号が混在する場合等には、あらかじめ各学校において規準を決めておく必要がある。「AAC ACC ABC」等
- ・ 学年末における観点ごとの評価の総括については、学期末に総括した評定の結果を基にする方法、または、学年末に観点ごとに総括した結果を基にする方法から各学校で選択する。